

基調講演

地域における絆の大切さ

講師 相楽郡民生児童委員協議会
(南山城村民生児童委員協議会)
会長 福川 昭男

1 絆の大切さ

- ・ 人と人との結びつき、他人への気配り(やさしさ・道徳)から教わること。

☆ 体験からわかったこと

現在 核家族への移行により、欠けている「人との絆」
他人に気を使わなくてもよい「気軽さ」がある。しかし他人から助けてもらえない。
⇒ 地域の人たち(母親や子どもたち)のためにはなっているか？

☆ 電車の車内の風景を見てみると

2 民生委員・児童委員として大切なもの

人とのつながり・絆が欠けている者 = 民生委員・児童委員活動の対象となる者

↳ これらを補い、埋めていくことが重要

☆ (例) 地域での配食サービスでの見守り活動からわかったこと・できたこと

⇒ 行政サービスでは手の届かない点は必ずある。
民生委員・児童委員に求められることが生じてくる。

例え、月1回の訪問・見守活動であって、助けられる点を見いだせることは多い。

3 今後、民生委員・児童委員に期待される役割

身近な助け合いの担い手が減ってきて、身内の絆が弱っている現在



高齢者の一人暮らし世帯の増加

家族以外の助けが特に必要

4 最後に

「月は平等に水面を照らす」

「差引勘定は天がする」

誰かから助けられ、誰かを助けて人生は成り立っていく。

助け合いの輪を絶やさないように